

科目名	生活の援助技術Ⅲ		時期	時間	単位
担当教員	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		1年次	前期	30時間 1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため看護師には、日常生活行動援助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護を実践することが求められる。そこで、実際の入院患者を想定し、事例を用いた演習を通して、看護師としての態度を学ぶとともに、安全・安楽な援助について検討し、実践することで対象に応じた清潔の援助技術の基礎を修得するため当該科目を設定した。				
学習目標	1 対象の生活を整えるための身体の清潔の援助技術を修得する 2 対象の生活を整えるための衣生活の援助技術を修得する				
修得する看護技術項目	No. 19 足浴・手浴 No. 20 整容 No. 21 点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換 No. 22 入浴・シャワー浴の介助（レポート） No. 24 清拭 No. 25 洗髪 No. 27 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1～11	身体の清潔	1 身体の清潔の意義 2 清潔援助の基礎知識 (1) 皮膚粘膜の構造と機能 (2) 清潔援助の効果 3 対象の状態に応じた援助方法の選択 (1) アセスメント (2) 援助方法の決定 (3) 援助の留意点 4 援助方法 (1) 入浴、シャワー浴 (2) 清拭 (3) 洗髪 (4) 手浴、足浴 (5) 整容			講義 演習 NO. 19 NO. 20 No. 22 (レポート) NO. 24 NO. 25
12～14	衣生活	1 衣類を用いる意義 2 衣生活援助の基礎知識 3 対象の状態に応じた援助方法の選択 4 援助方法 (1) 寝衣の選択 (2) 寝衣交換			講義 演習 NO. 21 NO. 27
15	試験	まとめ			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他		医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術	任 和子 他		医学書院	
参考図書・資料等					
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する				